

家畜衛生 いとも

H29年度 No.2

2017. 12月



島根県東部農林振興センター出雲家畜衛生部(出雲家畜保健衛生所)

〒699-0822 出雲市神西沖町 918-4 TEL(0853)43-7900 FAX(0853)43-2801

■ 県内で高病原性鳥インフルエンザウイルスが確認されています！

11月5日初発事例以降、下表に示すとおり、鳥インフルエンザウイルスの検出事例が続いています。回収された死亡野鳥は簡易検査後、鳥取大学で遺伝子検査を行っており、判明した事例の多くでH5N6亜型のウイルスが確認されています。このことは、広く野外にウイルスが存在していることを示していますので、家きん飼養者の皆様におかれましては感染防止対策の徹底をお願いします。また、11月に入り韓国では家きん農場(あひる)でHPAIが確認されました。

| No. | 回収日 | 回収地 | 種類 | 簡易検査 | 遺伝子検査 |
|-----|--------|-----------|---------|------|-------------|
| 1 | 11月5日 | 松江市宍道町白石 | コブハクチョウ | 陽性 | 陽性(H5N6 亜型) |
| 2 | 11月7日 | 松江市打出町 | キンクロハジロ | 陽性 | 陽性(H5N6 亜型) |
| 3 | 11月9日 | 松江市打出町 | キンクロハジロ | 陽性 | 陽性(H5N6 亜型) |
| 4 | 11月10日 | 松江市宍道町東来待 | ユリカモメ | 陽性 | 陽性(H5N6 亜型) |
| 5 | 11月11日 | 松江市宍道町宍道 | コブハクチョウ | 陽性 | 陽性(H5N6 亜型) |
| 6 | 11月12日 | 松江市西浜佐陀町 | コブハクチョウ | 陽性 | 陽性(H5N6 亜型) |
| 7 | 11月12日 | 出雲市斐川町 | コブハクチョウ | 陽性 | 検出されず |
| 8 | 11月12日 | 松江市岡本町 | キンクロハジロ | 陰性 | 陽性(H5N6 亜型) |
| 9 | 11月16日 | 出雲市平田町 | オオバン | 陽性 | 検出されず |

(11月27日現在)

さて、先日とあるスポーツの強化指定校の練習を見る機会がありました。練習を終えた選手たちは「ゆで玉子」を摂取しており、卵は栄養食品の王様(牛乳もですね)であるのを実感しました。日々の技術革新や御努力により安心・安全な畜産物が供給され、消費者は長年恩恵を受けております。ウイルス侵入が危惧され、ご心配のこととは思いますが、今一度、飼養衛生管理基準遵守され、伝染病発生ゼロで冬を乗り越えましょう。

韓国における高病原性鳥インフルエンザの状況(2017年11月以降)



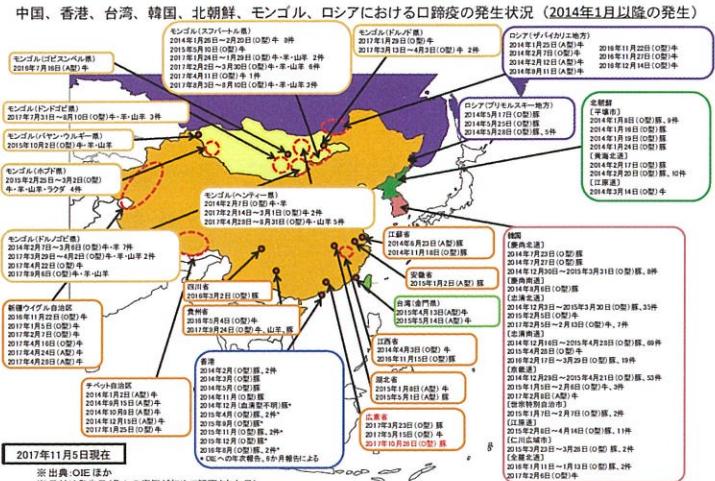
出典:農林水産省 ホームページ

■ 見えない敵との闘い～平成22年宮崎県での口蹄疫を忘れない～

平成20年3月に宮崎県で発生した口蹄疫は、同年7月に終息するまでに30万頭近い牛や豚を殺処分し、畜産関連被害額が1,400億円にもなり、その影響はここ数年の子牛相場にも及んでいます。

人や物の流通が拡大し迅速化したグローバル社会においては口蹄疫など家畜伝染病が想定外の場所・時に発生しています。このため国ではこれらの病気の侵入を防ぐため検疫の強化や水際対策として海外からの入国者の徹底消毒や検疫探知犬などを活用した携帯品検査を行っています。

しかし、それらの対策が万全でも病気の侵入が完全に防止できるとは限りません。宮崎県での発生の場合も侵入経路は解明されていません。また、近隣アジア諸国では、依然継続的な発生が認められています。口蹄疫の発生を防止するためには、個々の農家が日頃から危機意識をもって「入れない・持ち込まない」ことを定めた「家畜飼養衛生管理基準」を遵守することが最も重要です。



出典：農林水産省 ホームページ

■ 飼養衛生管理基準の遵守をお願いします

家畜伝染病による被害を最小限に留めるためには、「発生の予防」、「早期の発見・通報」及び「迅速・的確な初動対応」が重要です。「発生の予防」のためには、何より畜産農家の方々に日頃から適切に飼養衛生管理をしていただくことが大切です。

中国や台湾などの近隣諸国では、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザの発生が続いており、県内の死亡野鳥からは高病原性鳥インフルエンザウイルスが分離される事例が発生しています。また、2月には春節の時期を迎え、中国やその周辺地域からの人や物の移動が多くなることが予想されます。このような状況から、冬にむけて病原体が農場内に侵入するリスクも高まります。

農場の外から病原体を持ち込まないように、今一度、踏み込み消毒槽の設置、専用長靴や衣服の使用の徹底等、飼養衛生管理基準の遵守をお願いいたします。

なお、家畜伝染病予防法に基づき、年に1度、皆様の農場へ訪問し、飼養衛生管理基準の遵守状況を確認させていただいております。慌ただしい時期ではありますが、まだ訪問させていただいている農場におかれましては、対応をお願いいたします。



踏み込み消毒槽



専用の長靴の設置

■ 平成29年度 5条検査が終了しました

生産者の皆様や関係機関の方々のご協力により、平成29年度も家畜伝染病予防法第5条に基づく牛の結核・ブルセラ病・ヨーネ病の検査(5条検査)を春と秋に実施し、無事終了しました。今年度は奥出雲町(旧横田町)の約100頭の搾乳牛を対象に検査を行うとともに、今年度から始まった肉用牛約500頭のヨーネ病検査も併せて行いました。

平成30年度は奥出雲町(旧仁多町)、雲南市(旧吉田村・旧掛合町)の搾乳牛と肉用牛(24ヵ月齢以上の繁殖雌牛)を対象に5条検査を行う予定です。検査は搾乳牛が結核・ブルセラ病・ヨーネ病、肉用牛はヨーネ病を予定しています。

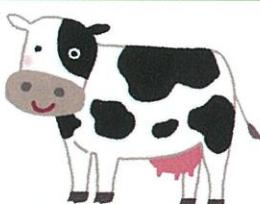
来年度も生産者の皆様や関係機関の方々におかれましては、引き続き5条検査にご理解をいただきご協力をお願いいたします。

●平成30年度 5条検査は…

対象地域

奥出雲町(旧仁多町)

雲南市(旧吉田村、旧掛合町)



搾乳牛



肉用牛(繁殖雌牛)

結核・ブルセラ病・ヨーネ病

ヨーネ病

来年度もご協力よろしくお願ひいたします

■ 第11回全国和牛能力共進会が開催されました

「第11回全国和牛能力共進会」が9月7日～11日の5日間、宮城県仙台市で開催されました。テーマに「高めよう生産力、伝えよう和牛力、明日へつなぐ和牛生産」を掲げ、繁殖雌牛については生産効率の向上を目指した繁殖能力の改良への取り組みと、肉牛については、今後の食糧生産・流通・消費を見据え、消費者の方々が求める「美味しい和牛肉」として脂肪の質の客観的評価が行われました。

当部管内からは、第1区(若雄)に県畜産技術センター、第3区(若雌)に奥出雲町 長谷川隆寿さん、第5区(繁殖雌牛群)に奥出雲町和牛改良組合、第7区(総合評価群)の種牛群に仁多和牛育種組合、肉牛群に JA しまね仁多肥育センターならびに奥出雲町中国牧場、第8区(若雄後代検定群)に出雲市の伊藤誠司さんと有限会社藤増、そして第9区(去勢肥育群)に有限会社藤増ならびに有限会社かつべ種畜牧場が出品されました。主な成績は、第3区が優等賞14席、第5区が優等賞6席、第8区が優等賞8席、第1区、第7区および第9区は1等賞でした。

長崎全共から5年の間、出品者の方々、関係者の皆様、大変ご苦労様でございました。次回は5年後に鹿児島県で開催される第12回全国和牛能力共進会へ向け島根県一丸となって、思いを新たに更に前進していきましょう。



■ 島根県種畜共進会が開催されました

平成29年度島根県種畜共進会が10月21日に島根県中央家畜市場で開催されました。この日は県内各地から肉用牛44頭、乳用牛30頭が出品され、日頃から取り組んでおられる愛牛の改良の成果を競い合いました。

当部管内からの出品牛の主な成績としては、肉用種牛の部で第3区若雌区の首席に雲南市の角折羊子さん出品の「もんじろう542」号が選ばれました。また、部位賞として、資質賞に雲南市武田伸二さん出品の「あきひさ3」号、腿賞に奥出雲町農業公社の出品の「かつはな」号が選ばれました。審査講評にありましたように、全体的に発育が良好で体積に富み、体の幅と伸びが良いものが多くみられましたが、脚元が弱いもの、体の締まりや腿の広さに欠けるものが散見され、品位についてばらつきが見られました。

一方、乳用種牛の部では各区の首席が以下のとおり、第1区(未経産 A)で出雲市永瀬哲也さん出品の「IDEE アバロン ルーアーサアセビ」号、第2区(未経産 B)で出雲市河村保志さん出品の「リバービレッジ ミドリ エコー A ET」号、第3区(未経産 C)で出雲市和田健敏さん出品の「WF ロイタツー プラントローリン」号、第4区(未経産 D)で奥出雲町若槻隆さん出品の「プレーリー アトニー マスカット」号、第5区(経産牛 A)で、出雲市河村保志さん出品の「リバービレッジ HR シト エレイン ET」号でした。また第6区(経産牛 B)の首席であり、全区の首席から選ばれるグランドチャンピオンは、出雲市永瀬哲也さん出品の「エバーエンゼル トライアングル メレンゲ」号が受賞しました。審査講評では、未経産の部では各区とも発育良好で体躯の充実したものが多く見られ、特に上位牛については各部位のバランスが良く、肋腹のしつかりしたものが多くみられ、将来が楽しみということでした。



審査の様子

■ 東部農林振興センター 防疫演習を開催しました

平成29年10月5日、松江市宍道町にある中央家畜市場にて、大型養鶏場での高病原性鳥インフルエンザの発生を想定した防疫演習を行いました。演習では、発生時の初動防疫を行う県職員が、必要な備蓄資材を市場に運び、集合場所やサポートポイントなどの設営を行いました。

また、県内の畜産関係者に、鶏舎で作業をする一般動員者として参加していただき、健康チェック、防疫服の装着、鶏舎内作業等の一連の流れを演習しました。市場内には実物のケージや、模型の鶏を設置し、本番さながらの緊張感をもった演習が行われました。



作業前の健康診断の様子



畜舎内作業の様子



日ごとに寒さが増し、冬の訪れを感じるこの頃です。体調管理に気を付けたいですね。

